

漢方薬は安全？

川口市立医療センター

内科(総合診療科)

むらなか

村中

まさひろ

将洋



近頃、ドラッグストアや薬局へ行ったときに、販売されている漢方薬の種類が豊富になったことに驚かされます。

私が漢方の勉強を始める以前から処方しているなじみの深いものから、ほとんど使用しないようなものまで、販売されている漢方薬は多種に渡ります。

いろいろな漢方薬が購入できるようになったのはよいことと思いますが、市販されている漢方薬は、“第2類医薬品”とあって、薬剤師または登録販売者が常駐している店舗であれば販売可能な薬です。薬を購入する際は、服薬指導の義務はなく、「購入者から情報提供を拒否された場合を除き、極力商品の情報を伝えなければならない」という努力義務の制限にとどまっています。つまり、薬剤師から薬の説明や、服薬指導を受けなくても、漢方薬を買って服用することができるということになります。しかしながら、漢方薬にも副作用があります。むくみや肝機能障害のほかに、低カリウム血症や間質性肺炎などの重篤な副作用も報告されています。

漢方薬を服用する場合は、医師の診察を受け、経過観察を行った上で服用するのが最も安全と考えます。日本東洋医学会の認定を受けた漢方専門医の診療を受けるのが最も確実ですが、漢方専門医は全国に2,000人程度と多くありません。幸いにも漢方薬の普及により、一部の漢方薬の使用に習熟した医師も増えてきています。

保険で処方できる漢方薬もありますので、試したい薬がありましたら、まずはかかりつけ医に相談いただく方が良いと考えます。